

熊本市現代美術館の開館20周年記念企画として、本展では1980年代生まれの熊本出身作家の作品を取り上げ、この20年のうちに熊本から芽吹いた新たな表現をご紹介します。

本展のタイトルは、熊本市現代美術館の開館記念展「ATTITUDE 2002」を参照したものです。当館のオープン時、本展の出展作家の多くはまだ学生であり、彼らのなかには当館の存在や企画から大きな影響を受けたという者も少なくありません。現在では、それぞれに自身の「Attitude」(=態度、姿勢)をもち、独立した作家として国内外で活躍している彼らの学生時代において、当館はどのような存在だったのでしょうか？ また今後、どのような存在でありうるのでしょうか？ 本展では、現在の彼らの作品展示とあわせ、作家インタビューやトーク等の関連プログラムをとおして、若い世代と当館の間に発生してきた関係性を振り返りつつ、今後の美術館のあり方についても可能性を探っていきます。



撮影：池ノ谷侑花(ゆかい)

## 坂本 夏子

SAKAMOTO Natsuko

1983年熊本市生まれ、東京在住。

画家。絵画でしか表すことのできない世界への興味を推し進め、不可逆な制作プロセスの組み立てを経て描き、思考の抽象化を試みる。

主な展示に「絵画の庭 ―ゼロ年代日本の地平から」(国立国際美術館/2010)、「魔術/美術 ―幻視の技術と内なる異界」(愛知県美術館/2012)、「であ、しゅとうるむ」(名古屋市民ギャラリー矢田/2013)、「はじまり、美の饗宴展すばらしき大原美術館コレクション」(国立新美術館/2016)、個展「迷いの尺度 ―シグナルたちの星屑に輪郭をさがして」(ANOMALY/2019)など。



## 園田 昂史

SONODA Takashi

1989年熊本県八代市生まれ、現在ドイツのボンを拠点に活動。

「変身」や「自己変容」をキーワードに、自分自身が植物や生き物になり変わり、自然や街の中に介入するという方法によって主にビデオパフォーマンス、ドローイング、インスタレーション作品を手掛ける。自然と作家、作家と鑑賞者の視点の転換を試みる。「自己変容」は、変身対象の観察方法であると同時に、言語に依存しないコミュニケーションとして機能していく。

主な展示に「対馬アートファンタジア2020-21」(対馬/2021)、個展「Auch ich werde von Möwen beobachtet(私もカモメに観察される)」(Kurfürstliches Gärtnerhaus/ボン/2022)など。



## 武田 竜真

TAKEDA Tatsuma

1988年熊本県天草郡生まれ、ベルリン在住。

隠れキリシタンの地のひとつである天草で生まれ育った背景から、信仰や文化の移動と変化、またそれらを運ぶ/受け入れる人の営みに関心を寄せる。人類学的視点を介在させ、歴史や美術史への再解釈を行いながら、絵画、立体、インスタレーション、映像といった様々なメディアを用いて、今日の多様な世界が内包する共通言語を探求する。

主な展示に「コレクション展1 Inner Cosmology」(金沢21世紀美術館/2021)、「VOCA展2021」(上野の森美術館/2021)、「Chronicle」(Kunstquartier Bethanien/ベルリン/2019)など。



## 松永 健志

MATSUNAGA Takeshi

1985年熊本市生まれ、熊本市在住。

画家。主に油彩を用いて、身の回りのさまざまな品、人物、風景などを明快な色彩と構図で描く。熊本トヨタ自動車CMでの作品起用(2019)や、熊本城ホールメインエントランス常設作品の制作(2019)ほか、地元を中心に多数のプロジェクトで活躍を続けている。

主な展示に「WHITE」(長崎書店・長崎次郎書店/2021)、「KUMAMOTO Letters」(Art Share L.A./ロサンゼルス/2020)など。主な受賞に「第33回熊本市市民美術展 熊本アートパレード」アートパレード大賞(2021)、熊日美術公募「描く力2018」グランプリ(2018)など。



<おもて面作品紹介>

- 1・13 園田昂史《Edelweiss》2019 映像
- 2 坂本夏子《Signals, mapping》2019  
キャンバスに油彩 194×130.3cm 高橋コレクション
- 11 同上、部分
- 3・7 松永健志 展示風景

4 武田竜真《The Eye of a Needle》2021  
クレート、スタイロフォーム、映像  
Photo: WATANABE Osamu  
Courtesy: 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa

5・6 坂本夏子《Signals, module》2019  
坂本夏子《Signals, re-constellation》2019  
キャンバスに油彩 各194×130.3cm 高橋コレクション

8 武田竜真《Halftone-Nagasaki #1》(部分)2022 木製パネルに漆

9・10 園田昂史《Die Wellen beobachten #2》2021 映像

12 松永健志《森》2018 キャンバスに油彩

14 松永健志《乗ってみなはれ》2020 キャンバスに油彩

## 桃栗三年柿八年

宮本華子/1987年生まれ 作家 本展発案者

私が15歳の頃、熊本市現代美術館が開館しました。

熊本県民にとって、大きな出来事でした。

少なくとも自分にとっては、学生時代にこの館で鑑賞した現代美術の展覧会が、作家としての土壌となっています。

本展に参加している作家たちは、20年前の開館当時には学生であり、一鑑賞者でした。

「桃栗三年柿八年」という言葉がありますが、

美術館は、美術作家は、どの程度で実りを迎えるのでしょうか。

また、実りを迎えるために、活動を続けるために、美術館、作家、

それらが存在する地域、社会、環境にはどんな姿勢が必要なのでしょう。

これを開館20周年の節目に問いかけてみたいと思い、今回の企画を美術館へ提案しました。

### 関連プログラム

オープニング・アーティストトーク

## 作家の20年、美術館の20年

2022年8月28日(日) 14:00-15:30 ホームギャラリー

本展出品作家4名が、熊本市現代美術館に触れてきた

それぞれの経験も振り返りつつ、現在の自身の活動について語ります。

**定員50名 要事前申込 入場無料**

[申込方法]

メールの件名を「OA展オープニングトーク参加希望」とし、

本文に以下を明記のうえ gamadas@camk.or.jp までお送りください。

①参加者氏名 ②代表申込者電話番号

### 関連展示

本展と同時期に、熊本県荒尾市と福岡県大川市で関連展示が開催されます。

詳細はそれぞれのホームページをご覧ください。

## Container 武田竜真個展

2022年9月4日(日)―10月30日(日) AIR motomoto

金・土・日曜開館/完全予約制

AIR motomoto プレゼンツ

## ―園田昂史・武田竜真2人展―

2022年9月13日(火)―9月25日(日) 大川市立清力美術館

9月20日(火)は休館日

※会期は変更される場合があります。

## 熊本市現代美術館

CAMK=Contemporary Art Museum, Kumamoto

熊本市中央区上通町2-3 びふれす熊日会館3階

TEL 096-278-7500 www.camk.jp

